

## 産業技術総合センター第5期事業推進構想（案）に係る意見表

実施日 令和5年11月10日（金）

意見
菅野部会委員：○社会課題への対応について深く考察がなされており、ものづくり産業の持続的な成長に資する解決手段とセンターの取り組みが定義されている。
澤田部会長：○産業技術総合センターが掲げる新たな事業推進構想においては、研究開発、技術支援、人材育成、産学官連携の各項目において良く練られた活動方針が提示されており申し分ない。一方、事業項目には縦割り感が出ている点が少し気になった。融合的に事業を実施する新たな産業支援手法についてもご検討いただきたい。
蛭名部会委員：○研究開発の側面からは、十分すぎるほど取り組みがされているし、その強みの実現についても十分な検討がされている。一方で県内企業においては、技術をどのように稼げるものにするかについてさらに実力を上げていく必要があるのではないか。技術経営の視点が大切と考えられる。
菅野部会委員：○急速に進化するAI、CAEなどの先端技術課題に取り組むための人材確保と育成に関しては地域企業と同様の課題をセンターも抱えており対応が必須と思います。地域の大学や企業の人材活用も含めたオール宮城のような取り組みができると良いと思います。
蛭名部会委員：○IV指標において、第5期の指標として、アウトプット「サービス実施件数」があるが、現在も技術相談と試験分析、および施設・機器開放は極めて多くの案件をこなしており、マンパワーも限られていることから、単純に数が多ければ良いというものではないと考える。アウトプット指標から、よりアウトカム指標を見ていく方向に賛成である。
○アウトカム④製品化・事業化達成については、その技術経営の視点が絡んでくる。そのため、第5期においてはこれまでよりもさらに経営の視点からのアドバイザー・連携の検討などをお願いしたい。
蛭名部会委員：○事業推進構想、具体的にはⅠ理念とビジョン、Ⅱ地域産業の課題とセンターの基本的な取組、Ⅲセンターの具体的な取組、Ⅳ指標はいずれも妥当である。